

**WEEKLY SIGNAL**

2020年1月17日(金) 1508号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

1/20(月)		1/21(火)	1/22(水)	1/23(木)	1/24(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 2,400	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他	+ 100	+ 2,000	+ 1,000	△ 4,000	+ 4,000
資金需給	+ 2,500	+ 3,000	+ 2,000	△ 4,000	+ 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(20年) 国債償還(変動15年)				
オペ期日	CP等買入 補充供給 △ 400 + 800				
オペスタート	国債買入 補充供給 + 3,700 △ 1,500				
(日本)	日銀金融政策決定会合1日目 鉱工業生産(前年比)(11月) 設備稼働率(前月比)(11月)	日銀金融政策決定会合2日目 黒田総裁記者会見	日銀営業旬報(1月20日現在) 月例経済報告(1月)	貿易収支(12月)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (12月18・19日分) 全国CPI(前年比)(12月)
(海外)		世界経済フォーラム(ダボス会議、24日まで) 英 失業率(9-11月)	米 FHFA住宅価格指数(11月) 米 中古住宅販売件数(12月)	欧 ECB政策金利発表、 ラガルド総裁記者会見 ユーロ圏 消費者信頼感指数(1月) 米 新規失業保険申請件数 (1月18日終了週) 米 景気先行指標総合指数(12月)	ユーロ圏 総合PMI(1月) ユーロ圏 製造業PMI(1月) ユーロ圏 サービス業PMI(1月)

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は、週初398兆2,400億円から始まった。その後は16日の国債発行の影響でやや減少し、397兆800億円を越えた。無担保コールON物は、前週末と同様に邦銀・証券業態を中心とした旺盛な調達意欲が継続し、同加重平均金利は積み最終日(15日)に△0.016%まで上昇した。新積み期初日(16日)、同金利は△0.042%に低下したものの、週末となる17日には地銀業態を中心に調達ニーズが強まり、△0.023%まで上昇した。ターム物は1~2W物を中心に、△0.02%近辺の水準で出合が見られた。日銀は15日の国庫短期証券買入入れオペのオフア額を1兆円とし、前回(2019年12月24日)から5,000億円の増額を行った。来週の主な予定は、日銀金融政策決定会合(20~21日)、月例経済報告の公表(22日)、海外ではECB政策金利発表・ラガルド総裁記者会見(23日)などがある。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<CP>**

今週の入札発行総額は約7,900億円で、週間償還額(約6,400億円)を上回り発行超となった。5・10日スタートでの発行増加や商社・鉄鋼・不動産業態からは500億円以上の大型発行が連日実施された。発行残高は、先週末の21兆6,195億円から16日時点では約22兆600億円弱となった模様。発行レートは、浅いマイナスレートも散見されたが概ね0%近辺の出合いであった。15日に、CP等買入入れオペが予定通り2,500億円オフアされた。結果は、按分レートが△0.001%・平均落札レート0.000%と、前回比(按分△0.001%、平均0.001%)で平均レートが低下した。来週の発行市場は、週間償還額(約3,900億円)に対し事業法人の発行ニーズが引き続き強く発行超が予想される。また、3月期末を見据えて期内物中心の発行案

**<TDB>**

16日に行われた1Y物882回債(1月20日償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1215%(前回債△0.1053%)、平均落札利回り△0.1254%(同△0.1172%)となり、入札後は△0.134%で出合いが見られた。17日のTDB3M物883回債(4月20日償還)入札結果は、最高落札利回り△0.1122%(前回債△0.1074%)、平均落札利回り△0.1170%(同△0.1175%)となり、入札後は△0.125%で取引された。そのほかセカンダリーでは3M881回債(4月13日償還)が△0.12%で出合いが見られた。来週は24日に3M物の入札が予定されている。

**<レポ>**

足許GC取引は、△0.09%の取引からスタート。一時的に△0.06%台での取引も行われたものの、概ね△0.08%~△0.07%で推移。短期3Mの発行日となる20日受渡しは△0.06%~△0.045%で取引された。SC取引では2年407回債の引き合いが多く見られ、週を通して△0.1%後半~△0.1%前半で取引された。他2年402~408回債、5年137~142回債、10年336~357回債、20年164~171回債、30年59・62~64回債、40年9~12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。